

種まき前 深層まで水を

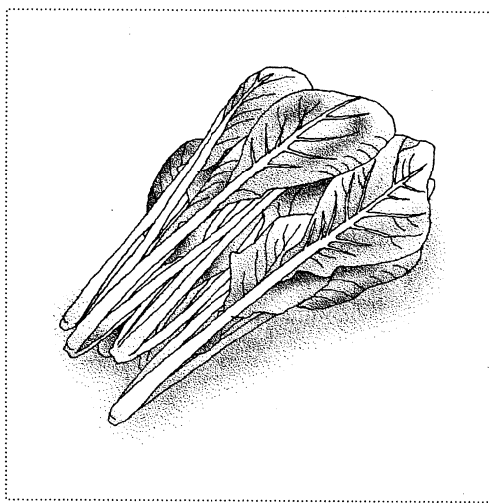
—— 鮫島 國親



ツケナの仲間ですが、アクが少なく、料理しやすい野菜で、和洋・中華いずれにも利用されます。栄養価が高く、カルシウムや鉄分、ビタミン類を多く含む緑黄色野菜です。

発祥の地は小松村（現在の東京都江戸川区）で、すでに江戸時代中期に栽培されていたようです。本来冷涼な気候を好みますが、都市近郊を中心にハウスを利用した周年栽培が広く行われています。他の作物の間作としても導入しやすく、特に冬～春は旬の味が楽しめます。今回は雨よけ防虫ネット栽培を紹介します。

発芽適温は15～35度、生育適温は20～25度ですが、最近は暑さに強い品種も出回っています。低温に一定期間遭遇すると花芽分化し、その後の高温でとう立ちが促進されます。連作に強く、ビニールハウス栽培で年間6～7回、露地で3～4回作付けできます。一作の栽培期間が短いことから、一斉に収穫する専作経営などでは、施肥、水やり、種まきの間隔などに留意し、均一に生育させることが大切です。本ぼは1平方メートル当たり苦土石灰20㌔、堆肥0.5㌔、化学肥料15～20㌔（三要素15%の場合）を一作分の目安として施します。苦土石灰と堆肥は2～3作分まとめて施用しても良いです。



種まき前に畑全体を深層部まで湿らせます（1平方メートル当たり30㌔）。種まき後土を沈める程度に水をまきまき。生育中期までは土壌が乾燥したら適度の水をまき、生育後期は水まきを控えます。栽植密度は条間15～20㌔、株間5～8㌔（1平方メートル当たり100株）で、必要に応じて通路を設けるとよいです。雨よけ栽培では、サイドに1㌔目合いの防虫ネットを張り害虫の侵入を防ぎましょう。

種まきから収穫までの日数は初夏～夏まきで20～25日くらいです（冬まきは50日程度）。草丈22～26㌔が収穫適期です。夏場は適期が短いので、直売などで少量ずつ販売する場合は、収穫適期幅を考慮して一

回にまく面積を決め、数日おきに順次まくと良いです。（鹿児島県農業開発総合センター副所長）

平成19年6月14日（木）／南日本新聞